

第12回日台アジア未来フォーラム
東呉大学東アジア地域発展研究センターUSR 国際シンポジウム

大学の社会的責任（USR）の現状と展望 ーマクロからミクロへ

共同主催：渥美国際交流財団関口グローバル研究会
東呉大学（校級）東アジア地域発展研究センター

2025年10月17日（金） 9：30～17：20

於・台湾 東呉大学 外雙溪キャンパス 第1教学研究棟およびオンライン

言語：日本語・中国語・英語

趣 旨

日台未来フォーラムは、台湾在住のSGRAメンバーの発案により2011年に始まり、毎年台湾の大学と協力して開催されてきました。第12回となる今回は、東呉大学東アジア地域発展研究センターとの共催により「大学と地域社会の未来」を主題に掲げ、大学の社会的責任（USR）を多角的に考察します。基調講演では観光と地域づくりを切り口にUSRの新たな可能性を探り、招待講演では日台の大学協働の試みや、ヨーロッパにおけるCSR・USRの先進的事例を共有します。さらにパネル討論では台湾・士林北投地域と東呉大学の取り組みをもとに、地域創生における大学の具体的な役割を検討します。本フォーラムは、台湾・日本・ヨーロッパを結ぶ知的ネットワークを基盤に、大学がレジリエンスや包摂性、民主的価値を育む主体としていかに地域と関わり得るかを国際的かつ学際的に議論する場を提供し、人文社会科学を越えて幅広い研究者に新たな視座と刺激をもたらすことを目指します。

参加にあたってのお知らせ

■ 参加には事前登録が必要です

事前登録 URL： <https://forms.gle/7Ma4D82BKejPpvxg8>

※オンライン参加の方には後日アクセス情報をお送りします

■ お問い合わせ SGRA 事務局： sgra@aisf.or.jp

プログラム

- 10 : 10 **開幕式挨拶** 王 世和 教授（東呉大学副学長）
 今西 淳子 （渥美国際交流財団代表理事）
 羅 濟立 教授（東呉大学外国語学部長・東アジア地域発展研究センター長）

基調講演

- 10 : 30 **地域社会の持続と観光学2.0 ー共創するまちづくりに向けて**
 山川 和彦（麗澤大学大学院言語教育研究科教授）

日本の地方社会では人口減少が進み、地域経済の維持が大きな問題になりつつある。こうした中、観光は地域活性化の重要な産業として期待され、多くの自治体が観光振興に力を入れている。しかし、観光客、特に外国人旅行者の急増により一部地域ではオーバーツーリズムが深刻化し、自然環境の破壊や住民の生活への悪影響が顕在化している。国連世界観光機関（UNWTO）は持続可能な観光を「訪問客、業界、環境および訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在および将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光」と定義しており、観光地においてもこの理念に基づいた取り組みが求められている。この持続可能な観光は、観光が観光客と観光業者によって成り立つものではなく、地域生活者、地域産業、行政、教育など多様なステークホルダーが関与する社会的活動になったと言っても過言ではない。そのため、地域の多様な関係者をつなぎ、持続可能性を調整・推進する「サステナビリティ・コーディネーター」の役割が重要になってくる。同時に持続可能な観光は、その場所に関係する人やものごとのウェルビーイングを考える必要があるといえる。（講演は日本語、中国語へ逐次通訳）

昼食

招待講演

- 13 : 10 **I. 「関係人口」及び日台大学国際協力の実践**
 楊 名豪（国立台湾海洋大学海洋法政学士学位学程助理教授）

国境を越える「関係人口」の創出：日台大学協働の試み 「関係人口」とは、特定の地域と多様な関わりを持つ人々を指す言葉であり、近年、日本の地方創生において重要な概念となっています。本講演では、この「関係人口」という概念を、台湾と日本の大学間の国際協力に応用し、より柔軟で非伝統的な学術的・社会的な繋がりを構築する方法について考察します。共同研究や学生交流、地域活性化プロジェクトを通じて、両国の大学がどのように新たな「関係人口」を創出し、ひいては東アジア地域の持続可能な発展と異文化理解を促進できるかを分析します。実践例を共有し、今後の台日大学連携における新たなモデルを提示することを目的とします。（講演は英語）

- 13 : 50 **II. ヨーロッパにおける大学の社会的責任の現代的実践**
 ーウクライナ、ドイツ、フランス、イギリスの事例を用いた国際比較研究ー

Olga Khomenko（オックスフォード大学 日本研究所）

本プレゼンテーションでは、ヨーロッパの大学における地域社会との連携モデルを比較しま

す。戦時下や平時における大学の役割の変化に注目し、サービスラーニング、パートナーシップ、参加型ガバナンス、ソーシャル・イノベーションなどの実践を紹介します。台湾に教訓になる事例を紹介しながら、大学がレジリエンス、包摂性、民主的価値を育むために果たせる役割について、国際的な視点から考察を行います。（講演は英語）

休憩

15 : 00 **【パネルディスカッション】**（討論は英語、一部中国語⇄英語逐次通訳）

<司会>

王 世和 教授（東呉大学副学長）

<登壇者>

汪 曼穎 教授（東呉大学心理学科）

張 綺容 准教授（英文学科・国際学士課程長）

李 泓瑋 助理教授（日本語文学科）

施 富盛 助理教授（社会学科）

16 : 50 **閉幕式挨拶** 徐 興慶（東呉大学）

講演者紹介



山川 和彦 YAMAKAWA Kazuhiko

麗澤大学外国語学部および大学院言語教育研究科教授。専門は言語政策、観光学、地方創生、日本語教育、多文化共生。学習院大学文学部を卒業後、筑波大学大学院にて国際学修士号を取得。麗澤大学の助教授、准教授を経て現職。主な著作として、『観光言語を考える』（共著、くろしお出版、2020年）、『多言語主義社会に向けて』（共著、くろしお出版、2017年）、『南チロル—自治獲得から地域的結束へ—』（明石書店、2005年）などが挙げられる。



楊 名豪 YANG Ming-Hao

華東師範大学資深 教授。清華大学国際・地域研究院ユーラシア研究センター主任、上海ニューヨーク大学-華東師範大学グローバル歴史・経済・文化研究センター主任、アメリカのウィルソン・センターの上級研究員も務める。研究分野は、冷戦の国際史、ソ連史、中ソ関係史、中朝関係史。代表的な著作には、『毛沢東、スターリンと朝鮮戦争』（2007年、2013年、2017年）、『やむを得ない選択——冷戦と中ソ同盟の運命』（2013年）、『最後の「天朝」——毛沢東・金日成時代の中国と北朝鮮』（2017年、2018年）、『経済の渦：米ソ冷戦を観察する新しい視角』（2022年）などがある。



Olga Khomenko（オリガ・ホメンコ）

オックスフォード大学グローバルエリアスタディーズ・ロシア東欧研究科 客員研究員。歴史研究者、ライター、コンサルタント。東京大学大学院総合文化研究科にて博士号取得。これまで、オックスフォード大学日本研究所の英国科学アカデミーフェロー、ハーバード大学ウクライナ研究所のフルブライト客員教授、博報堂国際フェローを歴任。キーウ・モヒーラ・アカデミー国立大学やキーウ経済大学などで教鞭を執る。著書に『ウクライナから愛を込めて』（2014）、『国境を超えたウクライナ人』（2022）、『キーウの遠い空・戦争の中のウクライナ人』（2023、いずれも群像社/中央公論新社）などがある。また、『現代ウクライナ文学の短編集』（2005）の共訳にも携わる。



■ SGRAとは

関口グローバル研究会（Sekiguchi Global Research Association/SGRA）は、良き地球市民（Global Citizen）の実現に貢献することを目指して2000年に設立されました。渥美国際交流財団の所在地、東京都文京区「関口」に因みます。SGRAは日本の大学院で博士号の取得を目指して研究を行い、渥美奨学生として共に過ごした外国人および日本人の研究者が中心となり、現代の課題に立ち向かうための研究や提言を、フォーラムやレポート等を通じて社会に発信しています。幅広い研究領域を包括した国際的かつ学際的な活動が狙いで、多国籍の研究者が広汎な知恵とネットワークを結集し、多面的なデータを用いて分析・考察を行います。